

# 光星継投 猛追かわす



▲【八学光星一八工大】5回表、八学光星無死、先頭打者の織笠が左越えに本塁打を放ち5-0とリード。捕手・葛西

## 打線は目覚め15安打

第104回 全国高校野球 青森大会

最終日

第104回全国高校野球選手権青森大会は最終日の22日、弘前市のはるか夢球場で決勝を行った。3時間12分にわたる雨中の熱戦の末、八学光星が八工大を6-5で破り、県内50チーム（連合4チーム含む）の頂点に。2019年以来3年ぶりとなる夏の甲子園大会出場を決めた。八学光星は二回、連打で2点を先制すると、中盤も着実に追加点を挙げ、粘る八工大の追撃を投手6人の継投で振り切った。阪神甲子園球場で行われる全国選手権は8月6日に開幕。組み合わせ抽選会は同3日、大阪市のフェスティバルホールで行われる。（本紙取材班）

### 織笠 会心ソロHR

はじけるような打球音に感謝と話した。甘い響かせ、甘く入った変化球を膝々と左翼スタンドに運んだ。八学光星の織笠は五回、会心のソロ本塁打を放つと、右手を突き上げ悠々とダイヤモンドを一周した。織笠は二回にも中堅越えに鋭い打球を飛ばし、先制の適時二塁打でチームを鼓舞した。準決勝まで、織笠は「一安打と苦しいから後に織笠がいたから楽に打席に立てた」と感謝する。甲子園に向け、野呂は「県大会では本塁打がなかった。自分たち2人が打たなければ」と自覚十分。織笠は「走者がいる場面、勝負強いバッテイングをしていきたい」と力を込めた。（渡部雅士）